

# 解答プリント「中学社会・歴史的分野」

## ■発展プリント

### 単元:1 歴史のとらえ方／古代文明と日本の成り立ち

【評価の観点】 ㊦：思考・判断・表現 ㊧：技能 ㊨：知識・理解

解答例	解説
<p>㊦ (1) いずれの文明も大河の流域でおこった。(18字)</p> <p>㊧ (2) I A</p> <p>II B</p> <p>㊨ (3) ウ</p>	<p>㊦ (1) エジプト文明はナイル川流域, メソポタミア文明はチグリス川・ユーフラテス川流域, インダス文明はインダス川流域, 中国文明は黄河流域でおこった。いずれも気候が温暖で, 繰り返される洪水により土地が肥え, 農耕に適した地域である。</p> <p>(2) I エジプト文明で使用された象形文字(絵文字)である。紙のもととされるパピルスに記された。</p> <p>II メソポタミア文明で使用されたくさび形文字である。粘土板に刻まれた。</p> <p>I・IIのほかに, インダス文明ではまだ解明されていないインダス文字, 中国文明では漢字のもととなった甲骨文字が使用された。</p> <p>(3) 地図中の★はイスラム教の聖地であるメッカを示している。アは仏教, イはキリスト教, エは儒学(儒教)を説明している。</p>
<p>㊦ (1) ① 記号-C 名称-岩宿遺跡</p> <p>㊧ ② 記号-A 名称-三内丸山遺跡</p> <p>㊨ ③ 記号-B 名称-吉野ヶ里遺跡</p> <p>㊦ (2) C→A→B</p>	<p>㊦ (1) ① 岩宿遺跡は群馬県の赤城山の麓に位置している。1946年, 民間人の相沢忠洋氏がこの関東ロームから黒曜石の打製石器を発見し, 1949年に行われた明治大学の大規模な発掘調査により, 日本にも旧石器時代があったことが確認された。</p> <p>② 三内丸山遺跡は青森市にある縄文時代の広さが約35haにおよぶ大集落の遺跡である。遺跡からは他の地域から運ばれたヒスイや黒曜石が発掘されたほか, クリを栽培していたことも確認されている。</p> <p>③ 吉野ヶ里遺跡は佐賀県にある弥生時代の大規模な環濠集落(濠で周りを囲んである)で, 物見やぐら, 柵の跡なども確認されている。外堀が囲んでいる集落の範囲は約40haにもなる。遺跡からは, 多くの土器, 石器, 鉄器と勾玉などのアクセサリーが発掘されたほか, 青銅器を製造した跡も確認されている。</p> <p>(2) Aの三内丸山遺跡は縄文時代中期, Bの岩宿遺跡は今から1万6000年位前までの旧石器時代, Cの吉野ヶ里遺跡は紀元前4～紀元後3世紀ころまでの弥生時代の遺跡である。</p>